図画工作科学習指導案

指導者 坂本 竜介

1 学 年 第2学年 14名

2 場 所 奥田元宋・小由女美術館 ロビー

3 題材名 耳をすませば ～きこえてくるよ 音のすがた～ 【領域】「かく」「みる」

4 題材について

題材観

本題材は、学習指導要領に示された次の目標と指導内容を受けて設定した。

	第1学年及び第2学年の目標	第1学年及び第2学年の指導内容
A 表現	(2) 造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。	(2)ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。 (2)イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。
B 鑑賞	(3) 身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取れるようにする。	(1)ア 自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見ること。 (1)イ 感じたことを話したり、友人の話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。
(共通事項)	ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。 イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	

本題材の中心的な活動は、物音や場所できこえてくる音を、形や色にイメージして表現することである。はじめに、身の回りの音見付けをして、どのような音がきこえたか感じさせ、どのように表せるか考えさせる。そして、奥田元宋・小由女美術館のロビーで見える風景から感じられる音を想像して表現させる。この時期の児童は、周りの人、物、環境などに体ごとにかわり全身で感じるなど、対象と一体となって活動する傾向がある。そういった発達段階にある子どもたちは、目には見えない音を、手や体全体の感覚を働かせて全身で感じると考える。それぞれが感じた音がどんな形や色をしているのか考えさせる。様々な発想の中で児童は、自分の感じ方や友だちの感じ方の同じところや違うところなどに気付くことができる。これらの活動を通して、子どもの想像力をきたえ、豊かな表現力を培うことができると考える。

本題材で児童に「つきたい力」は次の通りである。

- ・音をイメージして表すことのおもしろさを感じる態度 【感じる力】
- ・音がどのような形や色をしているか想像する力 【考える力】
- ・イメージした音の形や色を工夫して表現する力 【かく力】
- ・自分の作品のよさや友だちの作品のよさを見付ける力 【みる力】

児童の実態

本学級の児童は、1学期末に行ったアンケートでは、以下のような結果であった。

アンケート項目 (14人)	当てはまる	まあまあ当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
図画工作が好きですか。	14	0	0	0
図工の時間はワクワクする活動でしたか。	13	1	0	0
絵をかいたり、物を作ったりするときにアイデアが浮かびますか。	7	7	0	0
友だちの作品をみることは好きですか。	13	0	1	0

100%の児童が、「図工が好きだ」と答え、図画工作の時間を楽しみにしている。どのような題材でも意欲的に取り組む児童が多い。「絵をかいたり、物をつくったりするときにアイデアが浮かびますか」の質問には100%の児童が肯定的評価をしている。

1学期の題材「宇宙のいきものプチュウゴル」では、ブラックボックスの中にどんな生き物が入っているか触わりながら想像し、手や体全体の感覚を働かせて感じたことを基に一生懸命構想を練っている姿が見えた。触感を使って構想を練る活動は、子どもたちのアイデアを生み出す助けをしているように感じられた。また、粘土を粉から練ってつくることによって、子どもたちは粘土の感触を感じながら意欲的に活動することができた。

しかし、わずかであるが、表現が広がらなかったり、イメージがわからないためか作業が進みにくかったりする姿が見られることがある。

指導観

指導に当たっては、次のような手立てを講じていきたい。

〔感じる力を育てる手立て〕

はじめに、視覚を遮って身の回りの音見付けをしたり、大太鼓の振動を感じさせたり、タンバリンや小太鼓などと比較させるなど、音を様々な振動を通じて感じたりして体全体で音を感じさせる工夫をする。また、学校近くの森の中で風の音を感じるなどの体験を通して、場所からきこえてくる音を感じさせたい。そして、音を言葉や動作で楽しみながら多様に表現させる。そして徐々に形や、色などで表現させていきたい。また、風景からどんな音がきこえてくるか表現する活動も仕組み、体全体で音を感じさせていきたい。

〔考える力を育てる手立て〕

実際に奥田元宋・小由女美術館に行き、ホールから見える外の景色からどのような音が感じられるか考えさせていく。ホールから見える風景は、晴れの日の風景と雨の日の風景、夜の風景を用意し、それぞれの景色からどのような音が感じられるか交流させる。それぞれの景色から同じ音や違う音など見つけたことを交流しながら、どのような形や色に表現できるか考えさせていきたい。友だちの表現やイメージを交流させることで、作業が進みにくい子やいつも同じような表現に固執してしまう子のイメージの幅を広げていきたい。音からイメージした形や色を「音日記」にスケッチをさせ記録しておき、音をイメージするときの手助けにしたい。

〔かく力・みる力を育てる手立て〕

豊かな表現ができるために、様々な色の画用紙や透明な板、和紙などを用意しておく。また、マジックやパスなど使いながら、自分のイメージする形や色を自由に表現させる。透明な板は透かすこともできるので、風景に重ねながら音を表現させたい。

友だちの作品を鑑賞し交流する中で、自分や友だちの感じ方や表現の仕方の同じところや違うところなどに気付かせ、表現の面白さにふれさせたい。また、出来上がった作品は音がきこえた場所や音がした物の画像とどのように感じたかその理由を一緒に掲示し、児童の感じ方が伝わるように工夫していきたい。

5 題材の目標

音を形や色で表す面白さを感じている。

音から形や色などを豊かに発想して考える。

画用紙や和紙、透明な板などにイメージした音を工夫して表す。

自分や友だちの発想や表し方のすきなところや工夫したところに気付いたり、楽しんだりする。

6 題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度 (感じる力)	イ 発想や構想の能力 (考える力)	ウ 創造的な技能 (かく・つくる力)	エ 鑑賞の能力 (みる力)
音をイメージして形や色で表す面白さを感じている。	音はどのような形や色をしているかなど、表したいことを考えている。	イメージしたことを大切に、音を形や色などで表現している。	自分の作品のすきなところや工夫したところを発表したり、友だちの作品のよさに気付いたりしている。

7 指導と評価の計画(全5時間)

次	学習内容 (時数)	評価					
		ア	イ	ウ	エ	評価規準	評価方法
一	身の回りにある音をさがし、きこえた音を形や色に表す。 (2)					<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの音について、きこえてくる音の感じなどに興味を持ち、想像を膨らませている。 音を表すとどんな形や色をしているのか豊かに想像し、表し方を考えている。 	行動観察 ワークシート
二	美術館から見える風景からきこえてくる音を考える。 (1)					<ul style="list-style-type: none"> 美術館から見える風景からきこえてくる音を豊かに想像し、表し方を考えている。 	行動観察 ワークシート
	美術館から見える風景から音をイメージして、形や色に表す。 (1)【本時】					<ul style="list-style-type: none"> 風景から音を感じ、いろいろな形や色を試しながら、イメージを大切に音を表現している。 	行動観察 作品
三	自分や友だちの作品のよさや工夫したところなどを見付ける。 (1)					<ul style="list-style-type: none"> 自分の表し方のすきなところや工夫したところを発表したり、友だちの表し方や感じ方のよさに気づいたりしている。 	発言 行動観察 ワークシート

8 本時の展開

(1) 本時の目標

風景から音をイメージし、形や色などに表す。

(2) 本時の評価規準

風景から音を感じ、きこえてくる音をいろいろな形や色で表現している。【創造的な技能】

(3) 準備物

〔指導者〕 画用紙 和紙 透明な板 マジックなど

〔児童〕 パス スケッチブック

(4) 学習展開

学習活動	指導上の留意点 (支援を要する児童への手立て)	評価規準 (評価方法)
<p>1 音日記を見ながら前時に風景を見て、どのような音が感じられたか、ふり返る。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が木や水、空などからどんな音がきこえてきたか想起できるように音日記を見させる。 ・児童が雨の風景や夜の風景など天候によってきこえてくる音に違いがあったことを想起できるように、音日記を見させる。 	
<p>ガラスのむこうでは、どんな音がきこえてくるかをあらわそう</p>		
<p>3 風景からきこえてくる音を形や色で表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふわふわ」って雲が浮かんでいる音を感じるよ。 ・「ぽとぽとぽと」って水が落ちる音を感じられそうだよ。 <p>4 きこえてきた音を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は「サラサラ」という音を感じました。それを和紙でこの波の線と色で表しました。 ・ぼくは「ビューン」という音を感じました。どこまでも伸びていきそうだったので、画用紙をつなげて、線の太さを工夫して表しました。 <p>5 ふり返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考えていた音のほかに感じた音も表してよいこととする。 ・自分のイメージに合った画用紙や和紙など選ばせ、表現させる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【児童の意欲を高める言葉がけ】</p> <p>「風に揺れている森の音がきこえてきそうだね。」</p> <p>「水のゆれている音だね。」</p> <p>「フワフワした形がおもしろいね。」</p> <p>「夜は月の音がきこえてきそうだね。」</p> <p>「石やコンクリートからも音がきこえてきそうだね。」</p> <p>「雨の音のように見えるね。」</p> </div> <p>音日記を振り返らせ、作品制作の参考にさせる。 制作中に机間指導し、児童の作品の意図を見取っておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音をどのように表現したか、感じた音や気持ちを基に発表させる。 <p>・ふり返りカードで自己評価させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・風景から音を感じ、きこえてくる音をいろいろな形や色で表現している。【創造的な技能】 (行動観察・作品)